

組合加入は
こちらから



府職の友

FUSYOKU NO TOMO

2107号 2020年10月21日

発行所／大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人／小松 康則 編集人／樋口 浩之
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

どんなに改善しても根本問題は解決されず

人事評価制度の目的に矛盾

相対評価は直ちに中止を

表① 令和元年度人事評価結果【絶対(二次)評価結果と相対評価結果の相関】

絶対	相対	第一区分	第二区分	第三区分	第四区分	第五区分	総計	割合
S		9					9	0.1%
A		469	1,345	432			2,246	26.8%
B			339	4,530	841	279	5,989	71.4%
C						75	75	0.9%
D						65	65	0.8%
総人数		478	1,684	4,962	841	419	8,384	100.0%
割合		5.7%	20.1%	59.2%	10.0%	5.0%	100.0%	

今年度も絶対評価Bの職員のうち1120人(約19%)もの職員が下位の区分に落とされています【表①】。

職員アンケートは7月6日～31日に実施され、約86%(6805人)が回答しました。アンケート結果の状況・分析では、相対評価について

これは、職員基本条例で各区分の分布比率が定められている以上、絶対に解決しない大問題です。【なぜ、100点満点の仕事をしているのに、昇給や一時金でペナルティを課されなければならないのか】との質問に対しても「職員基本条例で決まっているので」としか答えられないものです。

職員基本条例がある限り解決されない「下位区分落とす」相対評価制度の最大の問題点は、絶対評価でB「標準・良好」(100点の仕事をしている)と評価された職員が、相対評価によってペナルティを課される第四、第五区分に落とされる問題です。

2013年度から本格導入された相対評価による人事評価制度。職員の大反対の声を無視して強行されました。その後、毎年実施される職員アンケート等による検証によって、人事評価制度の目的に反し、職員の意欲や能力の向上にはつながらない実態が明らかになっています。

制度導入当初より、府職労は一貫して相対評価の中止を求めるとともに、せめて給料や一時金(ボーナス)への反映をやめるように求めています。こうした声を受けて「昇給への影響を単年度に限定する」等の改善があったものの、根本的な問題解決には至っていません。

「相対評価は中止しかない」「職員基本条例は廃止、見直しを」の声をさらに大きく広げ、やりがいのある仕事ができる職場を「へん」まじょう。

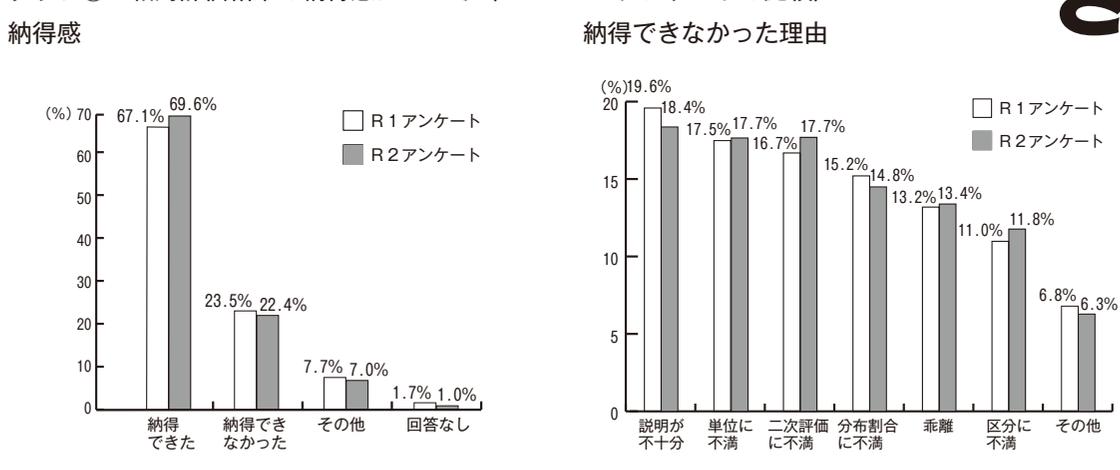
「職員基本条例で決まっている」というなら 条例そのものを見直すべき



「納得できなかった」は満の原因は、いずれも相対評価制度の根本的な仕組みに関するものばかりであり、これらの解消に大きく関わっています。すしかりありません。

「説明が不十分」「相対評価の単位に不満」「二次評価への不満」が約18%と高く「分布割合に不満」が約15%となつています【グラフ②】。

グラフ② 相対評価結果の納得感について (R2・R1アンケートの比較) R=令和



府民の命と健康、くらしと営業を守るため、必死に頑張る府職員に応える勧告を

感染症の拡大や災害時に 十分に対応できる人員体制こそ急務

10月7日、人事院が国家公務員の一時金(ボーナス)0.05月分削減を勧告しました。今月末にも大阪府人事委員会が勧告を行う予定です。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、危機管理室、健康医療部、商工労働部などは多忙な業務に追われ、その他の部局においても、ただでさえ本来業務で

忙しいうえに、年度途中の人事異動や応援派遣など、全庁一丸となって対応しています。

府職労は、こうした職員の奮闘にたいへん賞賛し、労働条件の改善、感染症の拡大や災害時に十分に対応できる人員体制の確立をめざし、引き続き全力を尽くします。

遊歩道

今年5月に一度の国勢調査の年。国の最も重要な統計調査で、生活環境の改善や防災計画など、様々な施策に役立てられる。この調査には統計調査員という調査票を配布・回収する役割を担う人々がいる。高齢の方が多くと聞く。最近では調査員になりすまして、個人情報聞き出すところも少なくありません。調査員がきつい言葉を浴びせられたり、ないがしろにされたりする現状もあるという。▼そんな調査の苦勞を記録漫画にした投稿がSNSで話題になっている。作者は「えむふじん」さん。夫婦で統計調査員として働いた実録エピソードを発信している。「知らないお宅のピンポンを押すのは毎回恐怖です」「たまに親切な人にめっちゃ癒される」などのコメントが寄せられ、報酬が少ないうえに、骨の折れる仕事であることがよくわかる▼実話の生々しさといえは「マンション管理員オロオロ日記」「メーター検針員テゲテゲ日記」なども新聞広告に載っていた。こちらも薄給で働く高齢者のお話。年金だけでは暮らせない、他人事では済まされない「一億総活躍社会」には自信がありません。